

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員全員で理念を考え、ケアの方向性を統一するようにしている。支援の方法や考え方に悩んだときは理念に立ち返るよう指導している。</p>	<p>「みんな元気に・みんな笑顔で・みんな楽しく」という理念を、職員全員で考えた。これには、利用者だけでなく「地域みんなが」という意味を込めている。玄関前に大きく掲示して職員が意識できるようにするとともに、地域へも広報紙などで周知している。管理者は、日々の指導やカンファレンスの際には理念を振り返るようにし、職員間で共有しながら実践している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域に広報誌を配布させていただいたり、自治会長から地域の行事を案内していただく等交流できるよう心がけている。</p>	<p>3ヶ月に1回地域向けの広報紙を発行し、回覧板で回すなどして地域にホームの活動を伝えている。また、地域の清掃やゴミ拾い、隣接する中学校の行事などに積極的に参加している。日常的にも、ホームのゴミ捨てを利用者と職員が一緒に行う際などに近隣の方とも挨拶を交わしている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所としては実施は不十分である。法人としては地域の方々にむけた講演会等に講師を派遣するなどして、協力している。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で頂いた意見やアドバイスは職員に伝えサービスの向上に活かしている。</p>	<p>会議には、利用者・家族代表、民生委員、児童委員、近隣の学校の校長や保育園園長、消防署職員、地域包括支援センター職員など、多様なメンバーが随時参加している。いろいろな視点でサービス内容や評価結果等について話し合い、会議での意見は運営に反映している。</p>	<p>議事録等の整備が十分でない状況がある。有意義な会議が行われているので、会議参加者以外にもわかりやすくその内容が伝わるよう、確実な記録の整備に期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>日頃から連絡をこまめにとっている。また、定期的に市内のグループホームが集まり情報連絡会を開催し、そこに市担当者にも出席いただいている。</p>	<p>市の担当者とは日頃から電話連絡を取り合っている。また、市内のグループホームによる連絡会を定期的に開催しており、市の担当者にも参加してもらい、情報交換を行っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として研修を行い、正しく理解してもらい取り組んでいる。	法人全体の新採用時研修として必ず身体拘束についての内容を組み込み、拘束のないケアについて理解を深めている。法人としてマニュアルも整備されている。また、管理者は、日常のケアの中で無自覚に身体拘束を行っていないか確認を行うようにしており、身体拘束のないケアが実践されている。	法人内研修や外部研修の参加記録や復命書等の記録整備・保管が十分でない状況がある。周知や振り返りなど、ホームとして研修記録をより活用しやすいよう、確実な記録整備と保存が望まれる。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として研修を行い、正しく理解してもらい取り組んでいる。	法人全体の新採用時研修として必ず虐待防止についての内容を組み込み、身体的な虐待はもとより、心理的な虐待についても理解を深めている。法人としてマニュアルも整備されている。管理者は、普段のケアの中で虐待につながるようなことがないように注意を払っている。	職員が参加した外部研修について、他の職員にその資料を配布して内容を共有しているが、ホームとして復命書等の記録保存が十分でない状況があった。周知や振り返りなど、ホームとして研修記録をより活用しやすいよう、確実な記録整備と保存が望まれる。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として研修を行い、正しく理解してもらい取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲についても説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の中でお客様やご家族の意見を聞いている。	利用者からは、担当職員が中心となり、日常のケアのなかで随時口頭で意見を聞いている。家族からは、面会時等のほか、年1回「白ふじ家族会」を開催して意見などを聞く機会としている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議、年に2度個別面談等を実施して、意見を聞き反映させている。	月に1回、全職員参加の会議を実施して意見を聴取している。また、年2回の管理者と職員との個別面談を実施し、個々の希望などを聞き、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ、法人全体で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を取り入れ、法人全体で取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にあるグループホームで定期的に職員の交換研修や情報交換会等を行って取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネから情報をもらったり、事前面接・体験利用等を行って関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にケアマネから情報をもらったり、事前面接・体験利用等を行って関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お客様、ご家族と面談等を行うなかで、思いを受け止め必要としている支援を見極めて、ケアマネや地域包括職員との連絡も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様の思いや根本にある苦しみや不安、喜び等を知ること努め、暮らしの中で共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、お客様と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝えている。	家族の面会が多いので、その際に口頭で家族の想いを聞くとともに、ホームでの利用者本人の状況を伝えて情報を共有し、本人とともに支えていく関係づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様一人一人の生活習慣を尊重して、継続的な交流ができるよう働きかけている。	今まで利用していた理美容院に行けるよう家族の協力を得たり、職員が同行するなどしている。また、昔馴染みの方が本人に会いにホームに訪問してくれた際はゆっくり過ごせるようにし、これまで本人が築いてきた馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の中でお客様と多く会話を持つようにして、役割活動等を通じてお客様同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られ方にも、お客様と一緒に訪ねたりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、ご家族とも相談しながらお客様本位で検討している。	センター方式のアセスメントを使用して把握に努めている。利用者個々の担当職員が本人の日々の言動から思いや意向を汲み取り、記録や申し送り、会議などで、他職員と情報共有し、実現にむけて支援している。本人からの把握が困難な場合は、家族等からの情報をもとに本人本位に検討している。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや他事業所の相談員等からも情報を頂き、把握に努めている。	利用者本人や家族等、入居前の担当ケアマネジャーや利用事業所の職員等から、これまでの暮らしに関する情報収集をしている。その後も、センター方式のアセスメントを活用して把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	かかりつけ医や法人のOT・PT等からも協力を頂き、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見をお聞きし反映するようにしている。アセスメントを含め会議等に機会に職員全員で話し合いを行っている。	本人から聞き取った意向を中心に、面会時等で確認した家族の意見、かかりつけ医の助言や指示内容をもとに担当職員が介護計画の原案を作成し、他の職員からも意見や提案を出してもらっている。最終的に計画作成担当者がまとめた計画書について、会議等で職員全員で検討し、チームとして介護計画を作成している。	介護計画作成過程で家族やかかりつけ医等の関係者からどのような意見が出たのか等、記録が十分でないものがある。また、計画作成の手順・担当者・作成時期などの流れがやや明確でない状況がある。計画作成・見直しの仕組みを明確にするとともに、一連の意見や検討プロセス等についても記録して活用することにより、よりよい介護計画へとつながることを期待したい。今後、法人全体でパソコンでの記録管理システムが整備される予定とのことなので、期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、記入している。申し送りや勤務開始前に確認し、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところ、多機能化というところまで取組めていない。ニーズに対応した柔軟な支援ができるようこころがけている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お客様と地域とのさまざまな接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には利用前のかかりつけ医に受診を継続していただき、連絡をこまめに行い適切な医療が受けられるよう支援している。	特別な事情がない限り、利用前のかかりつけ医の受診を継続している。基本的には家族に受診同行してもらっているが、家族が同行できない場合は職員が代行している。受診の際には、連絡票を作成して医師に本人の状況等を伝え指示を受けており、職員が同行しない場合にも密な情報共有を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要があれば、法人内の看護師やかかりつけ医の看護師の相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談はこまめに行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の考え方をご家族には説明している。	看護師の配置がないこともあり、現段階では、重度化や終末期のケアには対応していない。そうした状況が予測される場合は、法人内外の特別養護老人ホームなどへスムーズに移行できるよう支援している。このような方針については契約時に家族に口頭で説明している。	重度化や終末期の方針について、契約時の口頭説明でとどまっている。管理者は、口頭のみでなく、指針を文書化したうえで説明と同意が必要と考えているので、今後の取り組みに期待したい。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や講習会に参加して、急変や事故発生時に備えている。	職員全員が消防署主催の救命救急講習に参加している。また、法人全体でも緊急時対応訓練を行っており、職員が参加している。また、ボタン一つで警備会社や法人の宿直室に連絡が行き、応援が得られる体制が整っている。	研修の参加記録や復命講習の記録の整備が十分でない状況がある。周知や振り返りなど、ホームとして研修記録をより活用しやすいよう、確実な記録整備に期待したい。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、運営推進会議のメンバーにも参加して頂いている。地域の防災訓練にも参加させていただいている。	年2回避難訓練を行っている。地域の防災訓練に管理者が参加することを通じて、地域の情報を得たり、地域住民との協力関係を築いている。また、運営推進会議に消防署員にも参加してもらい、ホームの災害対策についての意見を聞いており、その意見を参考に居室替えや備品準備等も行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の意識向上を図るために外部評価の自己評価やミーティングの機会を使って指導している。	職員の声かけや対応は、利用者の尊厳を大切にしている。管理者は、職員のささいな声かけや職員間での申し送りなどでもプライバシー侵害が起こり得ることを意識しており、日々職員への指導を行っている。書類の保存・管理方法も徹底されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案する等して、お客様が自己決定できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様と話し合いをしながら、希望に沿った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様と話し合いをしながら、好みやTPOに合わせた服装等を支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様の好みや役割分担、得意分野を大切にしながら支援している。	法人の管理栄養士が作成した献立を基本としているが、利用者から日々食べたいものを聞いて書き込んでおくボードを台所に用意し、それをもとに柔軟に献立変更している。家族や近隣住民からの貰いものなどがあつた場合も柔軟に変更している。また、郷土料理と一緒に作ったり、月に1回はお好みメニューの日を設けるなどして食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立てている。摂食量チェックを行い、水分チェックも行っている。お客様に合った食形態や水分形態で提供する等工夫もしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方の状態にあつた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄チェック表を作り、排泄のパターン等を把握して自立に向けた支援をおこなっている。	個別の排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し、排泄誘導の声かけなど個々の状況に応じた支援をしており、利用者全員がトイレでの排泄ができている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排泄チェック表をつくり、職員間の情報共有をして、かかりつけ医や看護師に相談をしながら個別の支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでもお好きなときに入浴できることをお伝えして個々の希望にそった支援をしている。	入浴の回数や時間をホーム側で強制せず、なるべく一人ひとりの希望に添うようにしている。時間帯は夕食前後を基本としながら、全員が最低週2回は入浴できるようにしており、希望によっては毎日入浴する方もいる。入浴剤を入れたり、職員が利用者の背を流しながら会話するなど入浴を楽しめるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度・湿度計を見ながらエアコンや湯たんば、電気毛布等使い、お客様の好みや状況を配慮しながら支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋のコピーを個別に整理し、内容が把握できるようにしている。また、配薬ミスがないよう薬ケースを色分けしたり、個数を記入したり工夫している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、よくお話を聴き、お客様のあった支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、日課の中に外出の時間を設け、希望に沿って支援できるようにしている。それ以外にも希望に沿って外出ができるよう支援している。	管理者は、ホーム内での濃密な人間関係では、息抜きとして個別の日常的な外出が必要と認識しており、通院や散歩、ゴミ捨てなどで戸外へ出る機会を多くとるようにするとともに、本人が行きたいと希望した場合は可能な範囲で叶えられるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を聴き、お金を所持したり、使って頂けるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞をだすための支援もおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様に季節の花を生けていただいたり、季節感を味わっていただけるものを飾ったりして工夫している。	ホーム内には季節の花を活けたり、生活感のある自然な飾りつけがされている。また、ホーム職員が書いた利用者と職員の似顔絵のイラストを飾るなど、あたたかみのある空間づくりがされている。企業の社員寮だった建物を改築しているため、段差などハード面の制約も多いが、スロープを用いたり、注意喚起や説明書きをわかりやすく掲示するなど、利用者が安全に過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室を自由に使っていただけるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様やご家族と相談しながら、また職員からのアイデアも加え工夫している。	本人・家族と相談しながら居心地の良い居室づくりを支援している。本人がこれまでの生活で使ってきたものを持ちこんでもらっており、本人や家族の写真、表彰状などが飾られ、これまでの本人の生活を感じられる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	既存の建物を改築したため段差等があるが、手すりやスロープ等をつけ、安全な環境づくりを出来るだけ工夫している。		